平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月1日

上場取引所 JQ

上場会社名 日本ライフライン株式会社
 コード番号 7575 URL <http://www.jll.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月15日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 鈴木 啓介
 (氏名) 政次 浩二

TEL 03-6711-5200

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	16,600	—	1,188	—	1,252	—	619	—
21年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	57.37	—
21年3月期第3四半期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	21,918	14,240	65.0	1,318.32
21年3月期	21,737	13,869	63.8	1,283.90

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 14,240百万円 21年3月期 13,869百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	25.00	25.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,174	—	1,261	—	1,287	—	546	—	50.62

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
詳細は、7ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	11,302,497株	21年3月期	11,302,497株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	500,250株	21年3月期	500,250株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第3四半期	10,802,247株	21年3月期第3四半期	一株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されております業績予想の数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記の予想の前提条件その他の関連する事項については、3ページの「1. 連結経営成績に関する定性的情報」を参照してください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

※当第3四半期連結累計期間より四半期連結損益計算書を作成しておりますので、数値についての前年同四半期比較は行っておりません。

(売上高について)

当第3四半期連結累計期間におきましては、当社の主力商品である心臓ペースメーカや自社製造製品であるEPカテーテルならびにガイドワイヤーが好調に推移し、その他商品も概ね順調に推移いたしました。

また、外科関連に含まれております人工血管につきましては、本年4月より当社の連結子会社であるJUNKEN MEDICAL社製品を販売しており、市場では高い製品評価を頂いておりますものの、工場の供給能力に制約があるため、前年同期に比べ売上高は大幅に減少いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は166億円となりました。

品目別の販売状況は以下のとおりです。

なお、当四半期連結累計期間より四半期連結損益計算書を作成したことから、品目区分に連結子会社のみで販売する商品を分類する「その他」区分を新設しております。

また、「外科関連」の区分には、連結子会社において販売する人工肺関連商品の売上高が含まれております。「リズムデバイス」、「EP/アブレーション」および「インターベンション」の各区分におきましては、これまで通り当社が販売する商品の売上高のみとなっております。

<品目別売上高>

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日) (至 平成21年12月31日)	(参考) 前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日) (至 平成20年12月31日)
リズムデバイス	8,872	7,108
EP/アブレーション	3,050	2,533
外科関連	1,421	2,687
インターベンション	2,124	1,887
その他	1,132	—
合計	16,600	14,217

※各品目区分に分類される主たる商品は以下のとおりです。

- リズムデバイス 心臓ペースメーカ、ICD (植込み型除細動器)
- EP/アブレーション EP (電気生理用) カテーテル、アブレーションカテーテル
- 外科関連 人工血管、人工心臓弁、人工心肺関連商品
- インターベンション バルーンカテーテル、ガイドワイヤー、心房中隔欠損閉鎖器具、血管内異物除去用カテーテル
- その他 血液浄化関連商品

※当第3四半期連結累計期間より四半期連結損益計算書を作成しておりますので、前期実績につきましては単体の数値となっております。

【リズムデバイス】

心臓ペースメーカーにおきましては、一昨年9月の新商品「リプライ」の発売から一年余りが経過いたしました。小型、長寿命、生理的形状といった特長から引き続き堅調に推移し、売上高は前年同期を約30%上回りました。

また、ICD（植込み型除細動器）につきましても、当社製品の優位性を訴求し、販売促進に努めたことから、売上高は前年同期を約34%上回りました。

以上の結果、リズムデバイスの売上高は88億7千2百万円となりました。

【EP/アブレーション】

EP（電気生理用）カテーテルにおきましては、アブレーション治療時の検査等に用いられる「EPスター・リベロ」を始め、既存製品が好調に推移したことから、売上高は前年同期を約32%上回りました。なお、新商品「パスファインダー」の販売を昨年12月より開始いたしました。

また、既に市場シェアトップであるアブレーションカテーテルにおきましても、競合製品の発売による影響を見込んでおりましたが、引き続き堅調に推移し、売上高は前年同期を約13%上回りました。

以上の結果、EP/アブレーションの売上高は30億5千万円となりました。

【外科関連】

人工血管におきましては、本年4月より販売を開始した自社グループ製品の評価が高く、市場ニーズに対応すべく増産に取り組んでおりますものの、依然十分な供給量が確保できていないため、前年同期に比べて売上高が減少いたしました。なお、来期下半期には新工場の稼働開始を予定しており、これにより十分な供給体制が整う見込みであります。

一方で、本年6月よりソーリン・グループ製の人工弁関連製品の国内独占販売を開始したことや、連結子会社における人工心肺回路の売上が加わったことが外科関連の売上高増加に寄与しました。

以上の結果、外科関連の売上高は14億2千1百万円となりました。

【インターベンション】

自社製造製品であるガイドワイヤーにおきましては、「アスリート・プレミアム」の発売による主力商品のモデルチェンジや高度に狭窄した病変部における通過性に優れた「アスリート・ウィザード」の発売が寄与し、売上高は前年同期を約14%上回りました。

また、先天性心疾患の治療器具であるアンプラッツァーにおきましては、心房中隔欠損閉鎖器具に加え、本年7月より販売を開始した動脈管開存閉鎖器具「アンプラッツァー・ダクト・オクルーダー」も堅調に推移いたしました。

以上の結果、インターベンションの売上高は21億2千4百万円となりました。

【その他】

連結子会社において取り扱っております血液浄化装置が好調に推移いたしました。

以上の結果、その他の売上高は11億3千2百万円となりました。

(損益について)

【営業利益】

売上が概ね順調に推移し、中でも心臓ペースメーカーや自社製造製品が引き続き好調であったことは売上高総利益率の改善にも寄与いたしました。

販売費及び一般管理費におきましては、リズムデバイスに係る旧来取引先との契約金の長期前払費用の償却負担が前期末で終了していること、また、当第3四半期連結累計期間において執行されなかった予算があったことが費用の減少に寄与いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における営業利益は11億8千8百万円となりました。

【経常利益】

営業外収益として為替差益等を9千2百万円計上する一方、営業外費用として支払利息等を2千8百万円計上した結果、当第3四半期連結累計期間における経常利益は12億5千2百万円となりました。

【四半期純利益】

特別利益として投資有価証券売却益を3百万円計上する一方、特別損失として固定資産売却損等を1千9百万円計上した結果、当第3四半期連結累計期間における四半期純利益は6億1千9百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(連結貸借対照表に関する分析)

①資産

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末に比べ2億6千万円減少し、171億9千1百万円となりました。これは主として現金及び預金が7億6千6百万円、売上債権が1億8千4百万円減少した一方で、たな資産が7億6千1百万円増加したことによるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ4億4千1百万円増加し、47億2千7百万円となりました。これは主として長期前払費用が3億5千5百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は前連結会計年度末から1億8千1百万円増加し、219億1千8百万円となりました。

②負債

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債が前連結会計年度末に比べ3億5千8百万円減少し、50億3千万円となりました。これは主として未払賞与が2億7千3百万円、仕入債務が2億7百万円減少した一方で、未払金が2億1千2百万円増加したことによるものであります。

また、固定負債は前連結年度末に比べ1億6千8百万円増加し、26億4千7百万円となりました。これは主として退職給付引当金が8千8百万円、長期未払金が7千4百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末から1億9千万円減少し、76億7千7百万円となりました。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ3億7千1百万円増加し、142億4千万円となりました。これは主として剰余金の配当を2億7千万円実施したこと、及び、四半期純利益を6億1千9百万円計上したことによるものであります。

(連結キャッシュ・フロー計算書に関する分析)

※当第3四半期連結累計期間より四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しておりますので、数値についての前年同四半期比較は行っておりません。

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ7億9千2百万円減少し、30億8千9百万円となりました。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、2千7百万円の支出となりました。これは主として税金等調整前四半期純利益を12億3千6百万円計上した一方、たな卸資産の増減による支出が7億6千1百万円、法人税等の支払額が5億6千9百万円となったことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、4億8千6百万円の支出となりました。これは主として投資有価証券の取得による支出が2億5千5百万円、長期前払費用の取得による支出が2億3千7百万円、及び有形固定資産の取得による支出が1億4千9百万円であったことによるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、2億7千9百万円の支出となりました。これは主として配当金の支払によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年10月30日に公表いたしました平成22年3月期の通期の連結業績予想につき以下のとおり見直しを行いました。

売上高につきましては、心臓ペースメーカやアブレーションカテーテルが好調に推移していることから221億7千4百万円（当初予想比1.2%増）に修正いたします。

営業利益につきましては、予算執行が遅れていた経費の支出等により、第4四半期における販売費及び一般管理費の増加が見込まれますものの、売上高の増加によりその影響が吸収されることから12億6千1百万円（当初予想比14.0%増）に修正いたします。

経常利益、当期純利益につきましては、為替差益等の営業外収益の計上があったことから、それぞれ12億8千7百万円（当初予想比17.2%増）、5億4千6百万円（当初予想比16.1%増）に修正いたします。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③固定資産の減価償却の算定方法

固定資産の年度中の取得、売却又は除却等の見積りを考慮した予算に基づく年間償却予定額を期間按分する方法によっております。

なお、定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

⑤法人税等の算定方法

連結子会社は、法人税等の算定に当たり、税金等調整前四半期純利益に見積実効税率を乗じて算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,385,300	3,151,472
受取手形及び売掛金	6,606,428	6,791,091
有価証券	704,451	731,179
たな卸資産	*1 6,678,124	*1 5,916,708
繰延税金資産	352,912	423,670
その他	*3 465,067	*3 438,241
貸倒引当金	△600	△600
流動資産合計	17,191,684	17,451,765
固定資産		
有形固定資産	*2 941,102	*2 962,067
無形固定資産		
のれん	19,637	25,160
その他	44,179	48,477
無形固定資産合計	63,816	73,637
投資その他の資産		
その他	*3 3,728,675	*3 3,254,684
貸倒引当金	△6,552	△5,152
投資その他の資産合計	3,722,122	3,249,532
固定資産合計	4,727,042	4,285,237
資産合計	21,918,726	21,737,002
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,503,244	1,711,126
短期借入金	1,800,000	1,800,000
未払金	604,527	392,131
未払法人税等	390,681	388,137
賞与引当金	312,086	37,997
その他	419,803	1,059,294
流動負債合計	5,030,343	5,388,688
固定負債		
長期未払金	886,385	811,707
退職給付引当金	1,142,988	1,054,382
役員退職慰労引当金	443,553	430,459
負ののれん	11,957	27,609
その他	162,709	155,130
固定負債合計	2,647,595	2,479,288
負債合計	7,677,938	7,867,976

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,115,241	2,115,241
資本剰余金	2,328,128	2,328,128
利益剰余金	10,154,439	9,804,807
自己株式	△351,374	△351,374
株主資本合計	14,246,435	13,896,803
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△5,647	△27,777
評価・換算差額等合計	△5,647	△27,777
純資産合計	14,240,788	13,869,025
負債純資産合計	21,918,726	21,737,002

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	16,600,685
売上原価	8,295,555
売上総利益	8,305,130
販売費及び一般管理費	7,117,046
営業利益	1,188,083
営業外収益	
受取利息	4,175
受取配当金	10,832
為替差益	28,541
負ののれん償却額	2,110
その他	45,183
営業外収益合計	90,843
営業外費用	
支払利息	12,407
デリバティブ評価損	4,140
その他	9,811
営業外費用合計	26,358
経常利益	1,252,569
特別利益	
投資有価証券売却益	3,622
特別利益合計	3,622
特別損失	
固定資産除却損	6,492
固定資産売却損	514
投資有価証券売却損	4,375
匿名組合投資損失	1,184
退職特別加算金	7,000
特別損失合計	19,568
税金等調整前四半期純利益	1,236,622
法人税、住民税及び事業税	570,557
法人税等調整額	46,376
法人税等合計	616,934
四半期純利益	619,688

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	5,564,083
売上原価	2,703,059
売上総利益	2,861,023
販売費及び一般管理費	2,411,931
営業利益	449,092
営業外収益	
受取利息	1,102
受取配当金	1,494
負ののれん償却額	703
その他	14,938
営業外収益合計	18,240
営業外費用	
支払利息	3,893
為替差損	1,340
その他	3,700
営業外費用合計	8,934
経常利益	458,397
特別利益	
投資有価証券売却益	374
特別利益合計	374
特別損失	
固定資産除却損	4,188
匿名組合投資損失	130
特別損失合計	4,318
税金等調整前四半期純利益	454,454
法人税、住民税及び事業税	119,678
法人税等調整額	109,186
法人税等合計	228,865
四半期純利益	225,588

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,236,622
減価償却費	199,857
その他の償却額	109,992
負ののれん償却額	△2,110
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,400
賞与引当金の増減額 (△は減少)	274,088
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	88,605
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	13,094
受取利息及び受取配当金	△14,981
支払利息	12,407
有形固定資産除売却損益 (△は益)	6,805
デリバティブ評価損益 (△は益)	4,140
投資有価証券売却損益 (△は益)	753
売上債権の増減額 (△は増加)	183,263
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△761,416
仕入債務の増減額 (△は減少)	△207,881
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△186,811
未払費用の増減額 (△は減少)	△550,198
その他	128,846
小計	536,477
利息及び配当金の受取額	15,334
利息の支払額	△10,190
法人税等の支払額	△569,173
営業活動によるキャッシュ・フロー	△27,551
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△149,808
有形固定資産の売却による収入	10,512
無形固定資産の取得による支出	△2,338
投資有価証券の取得による支出	△255,398
投資有価証券の売却による収入	92,106
関係会社株式の売却による収入	90,000
貸付けによる支出	△29,190
貸付金の回収による収入	30,185
長期前払費用の取得による支出	△237,290
その他の支出	△59,414
その他の収入	24,466
投資活動によるキャッシュ・フロー	△486,167
財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の返済による支出	△10,057
配当金の支払額	△269,124
財務活動によるキャッシュ・フロー	△279,181
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△792,900
現金及び現金同等物の期首残高	3,882,652
現金及び現金同等物の四半期末残高	*1 3,089,751

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

① 事業の種類別セグメント情報

当四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

当社及び連結子会社の営む事業は医療用機器の製造及び販売業であります。従って、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

② 所在地別セグメント情報

当四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

在外子会社及び在外支店がないため、記載を省略しております。

③ 海外売上高

当四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

「参考」

該当事項はありません。

6. その他の情報

生産、受注及び販売の状況

(1)生産実績

当第3四半期連結累計期間より四半期連結損益計算書を作成したことから、連結子会社のみで生産する人工血管製品等を「外科関連」に区分しております。なお、「EP/アブレーション」の区分におきましては、これまで通り当社が生産する製品の生産高のみとなっております。

区分	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	(参考) 前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
	金額	金額
EP/アブレーションカテーテル類	1,224,191	988,160
外科関連	242,690	—
その他	658,612	228,274
合計	2,125,494	1,216,434

※当第3四半期連結累計期間より四半期連結損益計算書を作成しておりますので、前期実績につきましては単体の数値となっております。

(2)受注状況

当社グループの事業形態は、原則として受注残高が発生しないため、記載を省略しております。

(3)販売状況

販売状況につきましては、3ページの【定性的情報・財務諸表】の1. 連結経営成績に関する定性的情報に記載のとおりであります。